



げんきっこ 10月

箱根教育合言葉 箱根を愛し かしこく・やさしく・たくましく



令和3年10月27日(水)
箱根町立宮城野保育園

10月も後半となり、葉も色づき始め、秋の深まりを感じています。緊急事態宣言が解除となり、芋ほり遠足や、4園合同お楽しみ会、5歳児交流と昨年できなかった行事を今年は、感染に十分留意して行いました。園の中で学ぶことはもちろんたくさんありますが、園外に出て、箱根の自然とのふれあい、地域の人や他園の子ども達との関わり、バスの乗車の仕方など公共のマナーを知る機会にもなり、園外だからこそ学ぶこともたくさんあります。これからコロナと共存する中で、子どもの興味、関心、発達を踏まえて今まで以上に行事、遊びや活動の範囲を吟味し、行っていきたいと思います。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

「みんなで楽しいスペシャルオリンピック」

今年は、夏に東京オリンピックが開催されました。年長児は、夏休み明けから、ハンマー投げ、アーチェリー、100メートル走と真似をしている姿がありました。そこで、秋の保育参加のテーマを年長組が考えた「みんなで楽しいスペシャルオリンピック」として行いました。当日は晴天の中、1時間ごと入れ替え制で行い、3歳児はかけっこやエビカニクスや親子で障害物をしました。4歳児は、忍者に変身してダンス、修行、親子でオセロや障害物を楽しみました。年長児は、3、4歳児の準備係やゴールテープや体操係を行い、それぞれが張り切る姿がありました。11時からの本番では、司会や挨拶を自分たちで行い、リレー、綱引きは親子で楽しみ、子どものみの競技では、障害物の後、音楽に合わせて得意なものを披露しました。(跳び箱、フラフープ、ハンマー投げ、アーチェリー)年長児の演技や一生懸命走る姿に感動している保護者の姿もありました。

どのクラスも親子で、笑顔溢れる時間を過ごしていたようです。保護者のアンケートにも「クラスごとで、時間もたっぷり親子で楽しめました。」「自信をもって参加していて成長を感じました。」と感想をいただきました。次年度に生かしていきたいと思ひます。暑期中、ご参加ありがとうございました。

園小中合同研究会

20日は、箱根町教育研究会主催の園小中合同研究会を開催いたしました。年に一回、園、小、中の職員が集まり、授業を参観したあと、グループに分かれ研究協議を行います。今年、各園が当番となり、森小学区は、宮城野保育園が会場となりました。箱根中学校の先生が7人、箱根の森小学校の先生が16人参観されたので、子ども達の興奮度は、マックスで、いつもよりも元気いっぱいの姿を見せていました。参観の先生方から「子ども達がいろいろな遊びを主体的に行っている。」「椅子取りゲームで負けた子が頑張っている友達を応援する姿が良い」など、子ども達の成長を感じる姿をたくさん話して頂きました。「先生たちが子どもの話をじっくり聞いている。」「丁寧な関わり、認める、褒めることが子どもの自己肯定感を高めている」など保育士もたくさん褒めていただきました。これからも園・小・中で連携をとりながら、箱根町の子ども達の成長を12年間のスパンで、見守っていきたくと再確認しました。14時降園のご協力ありがとうございました。



芦ノ湖の魚に触れる体験

芦ノ湖の魚に触れる体験を保護者会と芦ノ湖漁業組合にお願いしたところ、園に芦ノ湖の魚を届けてくれました。

トラックで運んできた魚(ナマズ・ヒメマス・ウグイ・ヨシノボリなど)を水槽や大きなバケツに移して、年齢ごとに順番に見たり触ったりする体験をしました。初めて触る子どもが多く、「ぬるぬるしてる」「こわい」「むり」って言っていた子ども達ですが、だんだん触ることに慣れると、すっかり、魚と友達になって触って観察したり、話しかけたりしている姿もありました。とても貴重な機会ですので、次年度も引き続き行いたいとお願いしました。お土産に全園児に芦ノ湖のワカサギの佃煮を頂きました。

保護者会の会長さん、漁業協同組合の皆様ありがとうございました。

